

平成30年度第2回JCHO病院新宿地域協議会議事概要

日 時：平成30年11月30日（金）13:00～14:00

場 所：JCHO 東京新宿メディカルセンター 本館2階会議室

出席者：山藤委員（新宿区健康部健康推進課在宅医療支援係）

寺西委員（笹塚町高齢者総合相談センター）

服部委員（白十字訪問看護ステーション）

山田委員（新宿区町会連合会）

大崎委員（東京都町会連合会）

菊池委員（新宿区医師会）

東京山手MC：矢野委員、中村委員、長谷川委員、笠井委員

東京新宿MC：関根委員、齋藤委員、野月委員、溝尾委員

司 会：東京新宿メディカルセンター院長 関根信夫

議事概要

1. 開 会

関根委員

本日はお忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。司会を務めさせていただきます当院院長の関根でございます。

委員の方々はほぼ固定メンバーですので、ご紹介は後程ご意見を賜る際とさせていただきますので、よろしくお願ひします。

今回新たに委員に加わって頂いた菊池俊之先生をご紹介します。菊池先生は新宿区医師会牛込支部の責任者をされています。皆様ご存知かと思いますが、当院で開催する際は牛込地区の先生、山手メディカルセンターで開催する際は大久保地区の原先生にご参加頂き、ご意見を賜っています。

それでは両施設の取り組みにつきましてご紹介させていただきます。

2. 両施設の取り組みについて

○東京山手メディカルセンター

中村委員：スライド資料により説明(スライド：当院の取り組み)

なお、JCHO病院新宿地域協議会設置規程について、同院が地域医療支援病院の認定に向け取り組む中で承認要件の一つである当協議会の開催頻度を年2回から4回にしたい旨の改定案が示された。

●後程委員の方々にご意見を頂くこととなった。

○東京新宿メディカルセンター

溝尾委員：スライド資料により説明(スライド：地域の中の病院)

野月委員：スライド資料により説明(スライド：看護部の取り組み)

3. 意見交換

関根委員

それでは意見交換へ移ります。

各委員の方々から、ご意見ご要望をお聞かせ頂ければと思います。

○山田委員（新宿区町会連合会）

町会連合会の山田でございます。

毎回地域との連携、地域住民のための情報発信を一生懸命されており、また今回もスライドを拝見し非常に良く分かりました。そのような努力をされている病院でしたら、もし自分が病気になったらお世話になりたいと感じました。やはり地域に対する情報発信は大切だと思っております。

地域の高齢者は健康に対し非常に気を使っており、インフルエンザのことや風疹の流行等、テレビ、ラジオからの情報だけでなく、病院の方からも伝えて頂けたら、住民も助かると思っております。

先ほどスライドでご紹介頂いたかかり付け医への取り組みの中で、開業医の先生方の顔写真を載せたパンフレットを備えているとの事、非常に良いと感じました。パンフレット掲載の開業医は近隣でしょうか。

・溝尾委員 近隣の開業医をご案内しています。

・山田委員 それは非常に良いと思います。有難うございました。

○大崎委員（東京都町会連合会）

東京都町会連合会の大崎です。

意見としては山田委員と同じですが、当初町会と医師会とで連携を組むにはどうしたら良いかお話を頂いた際、私共へそのような相談があること自体幸せに感じました。医師会と連携を組み、また、医師会の先生方の講演を聞くという事は素晴らしいことなので、都のみならず23区も連携し地域のためにやっという機運が高まっています。新宿区医師会館へ赴いた際、会長より「地域のための医師会」という言葉を頂きました。また、笹筒町等出張所などで講演をして頂いておりますが、新宿区民も大いに期待し待っており、実際参加者も多数おり盛況です。

チラシなどの案内も積極的にされており、年金病院当時に比べ変わってきていると感じております。

今のJCHO病院は医師をはじめ素晴らしいと感じております。

○菊池委員（新宿区医師会）

本日はお招き頂き有難うございます。

日頃 JCHO の先生方にはお世話になっております。このような会を設けて頂くこと自体とてもあり難く、特にコンセプトが非常に良く我々開業医にとってもありがたいことです。

患者さんは逆紹介を省いて病院に行きたがります。JCHO や NHO、或いは大学病院で医療を受けた人が圧倒的に多いのが現実です。そこで国の方針もあり棲み分けをしようという事になっています。JCHO では院長先生をはじめ率先し逆紹介率を高める取り組みをされており、1F ホールに各医院の写真入りパンフレットを置いて頂き、患者さんにかかり付け医を選んで頂くことを病院がやってくれることは本当に有り難く思います。

我々は自身のことを宣伝出来ません。このような連携をさせて頂くことは、医師会にとっても患者さんにとっても助かることです。

もう一点、訪問患者の件ですが、高齢化になり病院で完結しない患者さんが増えており、急性期を過ぎた後の問題は訪問看護となりますが、その中で開業医に担わせるのは、患者さんにとっても我々開業医にとっても悲しいことです。在宅専門の先生方の中では「つかみ対策制度」と言って日頃の往診は我々開業医が行い、もし何かあった時は病院が 24H 対応して頂く。それが今後広がっていくことは患者さんにとっても医療者にとっても良いことです。利益のためだけでなく社会のためにやるという機運が高まっており、その中で主導的な役割を果たして頂き、有り難いと感じています。

○服部委員（白十字訪問看護ステーション）

白十字訪問看護ステーションの服部と申します。

訪問看護の中でかかり付け医の話題が出ていましたが、これまではとりあえず病院の救急というケースが多く、地域の先生に繋ぐのが難しい雰囲気がありました。今は殆どの方がまずはかかり付け医の先生に相談し、かかり付け医が要入院と判断した場合、医院から病院に相談して頂くという手順が浸透してきており、医院と病院で主治医が二人いる方が増えてきています。

医療機器を色々つけて在宅で過ごされている方が増えておりますが、家族の体調の面で一時的なレスパイトが必要な場合、特養や老健では受け入れてもらえないという問題の中、病院の方で診て頂くことが多く、なにかあった時は助けてくださる病院の存在を心強く感じています。

来年度新宿メディカルセンターに訪問看護師が研修に来させて頂く予定で、今年度も新宿区内の訪問看護師が実習させて頂いております。特に地域の連携で緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟で見学実習させて頂いており、病棟の機能を実際に体験させていただき、また、認定看護師さんにはストマケア等を学ばせて頂いております。

逆に病院の看護師さんにも養成所へお越し頂き在宅の患者さんがどのような暮らしをされているかを見て頂き、それを病院へ持ち帰って頂き退院支援に活かして頂く等、お互

い交流を深めていますので今後ともよろしく申し上げます。

○寺西委員（笹笥町高齢者総合相談センター）

笹笥町相談センターの寺西です。

看護学校の取り組みに付きまして、先ほど野月看護部長からご紹介がありましたが、メディカルセンターの看護学生の特徴としましては、学年によっては9割が大卒で、他の学校と違い実習では打てば響き非常に面白いと感じています。

「訪問看護ステーションなないろ」との連携に関しまして、一例をあげますと認知症がかなり進んだ一人暮らしの方で、訪問を50回以上重ね何とか「なないろ」へ結び付けることができご本人のQOLがかなり改善しました。特異な事例ですが有り難く思っております。

本日は一点だけ新宿区で9月から開始した事業をご紹介します。それは「高齢者見守りキーホルダー事業」と言ひまして、65歳以上の方にキーホルダーを持って頂くというもので、高齢者総合相談センターに申込書を置き、ご自身の氏名、住所、緊急連絡先の電話番号・続柄をご記入して頂きそれを登録します。キーホルダーにはその方の担当センターの電話番号と裏には個人番号を入れます。また、シールも同時にお配りし、小物に貼って頂くなりし、その方が救急搬送された際にはシールに記された電話番号に電話して頂くと、その方の身元がはっきりします。緊急連絡先には私共が連絡します。緊急連絡先がない方の場合、センターの職員が駆けつけます。9月から運用を開始し、既に2,000名の方が登録されています。このキーホルダーやシールを付けている方が緊急搬送された際にはご活用ください。

○山藤委員（新宿区健康部健康推進課在宅医療支援係）

新宿区健康部健康推進課の山藤でございます。

今回は今年初めて行いました在宅医療と介護の交流会の説明をさせていただきます。

健康部と福祉部はこれまで別々に活動してきましたが、今回、新宿区を中央・東・西の3区域に分け顔の見える関係作りとして福祉部にお手伝い頂き交流会を開催しました。会ではコミュニケーションをテーマとし、11月29日に初めて開催しましたが、170名程ご参加頂きました。

飲み物等をご持参頂きワールドカフェスタイルにて色々な話をして頂き、つながりを広め、盛況の内に終了することが出来ました。次回は12月2日に東地区とし、牛込を含む地区で開催予定です。JCHOの職員方もたくさんお申し込頂いております。これを機に病院と地域の連携を進めていきたいと今後ともよろしく申し上げます。

4. 発議 規程改定について

・関根委員

色々ご意見を頂きありがとうございました。

先ほど山手メディカルセンターよりご提案頂きました当協議会の開催の頻度に付きま

して、我々としまでも委員の皆様のご意見をより多く頂ける機会としてはよいと思いますが、皆さまもお忙しい中ご足労頂くという面では申し訳ない気持ちもございますが如何でしょうか。

- ・ 中村委員

本日は規程改定のご同意を頂き、実際の開催につきましては今後のご意見により決めていきたいと思ひます。

- ・ 関根委員

何かございましたら、いつでもご意見を頂けましたらと思ひます。

- ・ 中村委員

規程につきましては、原則として年4回とさせて頂ければと思ひます。

- ・ 関根委員

文書につきましては問題ないかと思ひます。

5. 閉 会

- ・ 関根委員

それではお時間となりましたが、お忙しい中有難うございました。

次回は山手メディカルセンターとなりますので、よろしくお願ひします。

以上にて閉会となる。

文責 JCHO 東京新宿メディカルセンター
総務企画課総務係 峯村 均